

請願第2号

小学校低学年の子どもたちが安心して学校生活を送ることにする請願

1 趣 旨

幼保園から生活環境の変化が大きく変わる小学校低学年の子どもたちにとって、基本的な生活習慣や学習習慣の定着は大変重要なことである。しかし、近年個別の支援を必要としている児童は2012年度6.5%から2022年度8.8%と増えており、10年で2.3%増となっている。また、小さい学年ほど支援が必要な子どもたちは多く、小学校低学年では1割以上の子どもたちが個別の支援を必要としている。

授業中には、学習内容が分からない子への指導だけでなく学習道具の準備など様々な支援が必要である。また、休み時間や給食、トイレ、着替えなどの生活面でも見守りや声かけが必要である。このように子どもたちが安心して学校生活を送るためには、きめ細やかな支援が大切である。

福井県においては、低学年支援員が配置されており、なくてはならない人材となっている。しかしながら、児童31人以上に低学年支援員1人では、十分な支援を受けることができない。また、転出入による児童数の増減やわずかな入学者数の差により、複数いた支援員が次の年度に1人もいなくなってしまうような状況が起こっている。

そこで、下記のとおりによりに請願する。

記

幼保園から小学校へと環境が大きく変わる小学校低学年では、生活面・学習面において個に応じたきめ細やかな支援が必要であるため、低学年の子どもたちが安心して学校生活を送れるよう、低学年の生活支援員を増配置すること。

2 提 出 者

福井の教育をよくするための県民協議会 会長 矢田弘

3 紹 介 議 員

北川博規、斉木武志、山岸みつる

4 受 理 年 月 日

令和5年11月21日